

第2回 世界獣医師会—世界医師会 “One Health” に関する国際会議の福岡県庁における記者会見の開催

平成28年4月8日(金)、福岡県庁において、第2回世界獣医師会—世界医師会 “One Health” に関する国際会議の開催について、本会蔵内勇夫会長、横倉義武日本医師会会長、小川 洋福岡県知事、北橋健治北九州市長の同席のもと、共同記者会見が行われた。

まず、横倉日本医師会会長から、昨年5月、世界獣医師会(WVA)と世界医師会(WMA)は、人と動物の健康と環境の保全に関する関係者の連携と情報共有を図るため、第1回目のWVA-WMA Global Conference on One Health(GCOH)をスペイン・マドリードにおいて開催し、その際、私と蔵内会長が講演を行った。本第1回大会の成功により、WVA及びWMAから “One Health” 理念のいっそうの普及推進を意図して、医師会・獣医師会の連携成功のモデルである日本医師会・日本獣医師会に対し、第2回GCOHの日本での開催が要請された。これを受け、日本医師会と日本獣医師会は「人と動物の健康と環境の保全を推進するため、それぞれに関係する医師、獣医師等の専門家が緊密な協力関係を構築し、一体で取り組む必要があるとする “One Health” の理念を国際的に普及・推進すること」を目的とし、第2回大会を、2016年11月10日(木)～11日(金)、リーガロイヤルホテル小倉において開催することとした旨が説明された。

次に、蔵内日本獣医師会会長から、国際会議では、関係省庁及び自治体等の後援の下、関係省庁、関係自治体等の関係者を来賓に迎え、“One Health” に関する重要

課題である、人と動物の共通感染症、薬剤耐性菌のほか、動物との触れ合いによる癒やしの効果を子どもたちや老年寄りの治療に活用する動物介在療法(アニマルセラピー)等のさまざまな話題が協議され、500名の参加者を見込んでいる旨が説明された。

続いて、小川福岡県知事から、この機会に、県主催による市民公開シンポジウムを開催することとし、講師には、宇宙飛行士の毛利 衛氏をお招きし、宇宙から地球をみれば国境はなく、地球環境の中で人間も動物も一体として生きていることが一望できるのではないかとという視点で “One Health” に関連した内容の講演をいただく。また、海外からの参加者に伝統ある日本の文化を紹介するため、平安時代から現在に至るまで天神信仰の中心として名高い太宰府天満宮から雅楽団を招いて、演奏を披露していただく旨が説明された。

さらに、北橋北九州市長から、関連行事として11月12日に開催される動物感謝デーについては、当市が毎年この時期に開催している「北九州どうぶつ愛護フェスティバル」とのジョイント企画とし、日本獣医師会との共催により西日本総合展示場及びあさの汐風公園において開催することを計画している。2つのイベントの企画が相互乗り入れすることにより、参加者にとってより魅力ある、人と動物の共生を普及するうえでもより意義深いものとなると考えている旨が説明された。

その後の記者との質疑応答のおもな内容は次のとおりであった。



共同記者会見の風景

左から、北橋健治北九州市長、蔵内勇夫日本獣医師会会長、横倉義武日本医師会会長、小川 洋福岡県知事



会見後、成功に向け握手

記者 日本でGCOHを開催することによって、共通感染症対策がどのように進むのか。

横倉会長 医師と獣医師との連携で、動物から人への感染防止対策が進む。また、薬剤耐性菌対策など、いろいろな分野に成果が波及する。

藏内会長 第1回GCOHで日本が世界から評価されたのは、日本医師会と日本獣医師会との連携の取組が、まず福岡から始まって地方にも広がり、現在55会員のうち38会員で連携協定が締結されていることである。福岡はアジアに開かれており、共通感染症対策についてアジアに発信すれば、世界に広がっていく。

記者 なぜ北九州で開催するのか。

藏内会長 国際会議の開催には、通常は2～3年の準備期間が必要だが、来年は他の世界大会があるので今年に前倒しとなった。北九州は国際会議場としてのホテルの利用が可能であり、関連行事としての動物感謝デーの受け皿もあり、かつ福岡県、北九州市ともに支援体制が整っているためである。

北橋市長 北九州市では5月にエネルギー大臣会合があるが、GCOHはこれに続く重要な会議である。何としてでも成功させたい。

記者 GCOHの開催を、経済の活性化にどのように繋げていくのか。

小川知事 共通感染症について、身近な問題として関心が高まる。北九州市、福岡県ともに最大限の発信をする機会としたい。県としても関連行事を開催してまいりたい。

北橋市長 国際都市として資源エネルギーに力を入れてきたが、保健関連の会議を開催することは、市の違ったイメージを内外に訴える機会となる。

藏内会長 環境は身近な問題であるが、北九州市は環境対策の先進地域である。また、福岡県の食材をアピールする機会として、ディナー等において県産の食材が提供される。

記者 医師と獣医師の取組みをどのように世界に発信していくのか。

藏内会長 共通感染症対策には、長い歴史とともに、中央ばかりでなく地方でも取り組んでいくことが必要である。どうして日本で医師会と獣医師会との連携ができたのかというと、それは30年もの取組があり、福岡では県の支援があったためである。日本でネットワークを作り、これを世界に訴えていきたい。

本会議の詳細は決定次第、本誌及び日本獣医師会ホームページ等で紹介することとしている。



会見に参集された関係自治体、団体の代表者
左から、西間久高北九州市獣医師会会長、下河邊智久北九州市医師会会長、
北橋北九州市市長、藏内日本獣医師会会長、横倉日本医師会会長、小川福岡県知事、
松田峻一良福岡県医師会会長、草場治雄福岡県獣医師会会長